



## 「新しい会社組織」と「新しい人事・賃金制度」に向き合い 東日本ユニオンとJR労働者の明るい未来を創造しよう!



### JR東日本労働組合新潟地方本部 第14回定期大会

新潟地方本部は7月30日、新潟市の万代市民会館・多目的ホールにおいて、第14回定期大会を開催しました。130名を超える組合員の結集のもと、昨年  
の定期大会以降の取り組みを振り返るとともに、向こう1年間の方針を確立しました。

### 全組合員の組織力で東日本ユニオンを さらに強化・拡大しよう! 新潟地方本部 星山執行委員長あいさつ

最大の課題である組織

JR東日本の経営のトッププライオリティであるはずの安全は今、どうなっているか。経営を揺るがす事象が続いている。東北新幹線では走行中の列車分離が2度にわたる発生、6月にはE8系の故障により5時間半にわたり運転を見合わせた。安全は社員・お客さまの命そのものであり、生活や労働環境に直結する。東日本ユニオンとして申し入れを行っているが、事象そのものに向き合い、事象を生み出している労働環境、労働条件も検証すること。労働組合の視点で会社をチェックし、安全を創り出していこう。

2025春闘は過去最高の回答を引き出した一方で、夏季手当は満額回答ではなく、多くの労働組合が「足りない」「抑え込み

の拡大も実現してきた。この大会にも新たに加入した仲間が代議員として参加している。目の前にある課題解決のために仲間と声を掛け合い、多くのJR労働者の仲間にも呼びかけ、要求の実現、組織の拡大を実現していこう。

「格差など考えた事もなかった」「定期昇給とベアの違いがよく分からない」「一律のベアとはどういう意味か?」など、賃金や手当に対する意識のアンバランスが目立った。しかし追加支給を求め



自らの要求を明確にして会社提案に向き合おう——中央本部 生田書記長あいさつ

結をもって2025年度年末手当のたたかいは決起していく。「組織の拡大の実現に向けて、すべての組合員で繰り返し取り組み続ける」ことの、大きく3点を確認した。新たな組織・新たな制度

12名の代議員が一年間の成果を発言

私たちが未来を見据えるのと踏ん張りどころだ。私たちの未来を描き、退職まで安心して、ゆとりをもって働いていける施策にしていく。個人では対応できる問題ではないからこそ、労働組合に所属して、その土俵でたたかうことは労働者の利益を守る重要な権利であり、選択肢だ。多くのJR労働者と共に向かっていこう。

取組みを通じてユニオンに数多く寄せられた社員の本音は、その8割が2・8カ月分では納得できないという声だった。私たちは一人ひとりの取組みを通じて、JRで働く仲間たちの誰もが潜在的に持っている労働者としての価値観を掘り起こしてきたと言える。